

**令和 7 年度**  
**福島県 大学生と集落の協働による地域活性化事業**  
**大学生の力を活用した集落復興支援事業**  
**田村市船引町長外路行政区業務実施報告書**

獨協大学地域活性化プロジェクト長外路チーム

指導教員 経済学部国際環境経済学科 米山 昌幸

| <b>【目次】</b>                            | ページ |
|----------------------------------------|-----|
| 1. はじめに .....                          | 2   |
| 2. 田村市船引町長外路地区の概要 .....                | 2   |
| 3. 田村市船引町長外路地区の現状 .....                | 5   |
| 4. 今年度の活動実績と評価 .....                   | 7   |
| 4.1. ミーティングの開催                         |     |
| 4.2. 第 1 回現地活動                         |     |
| 4.2.1 「第 74 回 灯籠流しと花火大会」への参加           |     |
| 4.2.2 キーロの製作協力                         |     |
| 4.2.3. 田んぼでの生態調査                       |     |
| 4.3. 第 2 回現地活動                         |     |
| 4.3.1. 柿渋を活用した実証活動                     |     |
| 4.3.2. 長外路城跡における「落ち葉集め」の実施             |     |
| 4.4. 第 3 回現地活動                         |     |
| 4.4.1. 薪の里ながとろにおけるカブトムシ幼虫飼育に用いる「木葉さらい」 |     |
| 4.4.2. 薪割り体験                           |     |
| 4.5. 住民インタビューの実施                       |     |
| 4.6. 学内のピザ窯イベントへの乾燥薪の無償提供              |     |
| 4.7. 「大学生と集落の協働による地域活性化事業」活動報告会        |     |
| 5. 田村市船引町長外路行政区の抱える問題と課題 .....         | 20  |
| 5.1. 実態調査が得られた問題点                      |     |
| 5.2. 取り組むべき課題                          |     |
| 6. 次年度の活動計画案 .....                     | 22  |
| 7. おわりに .....                          | 22  |

## 1. はじめに

田村市船引町長外路地区を担当する「獨協大学地域活性化プロジェクト長外路チーム」は塩田賢太郎(代表 国際環境経済学科 2 年)、島田瑠里香(経済学科 4 年)、妹尾陸矢(同 3 年)、菅野泰輝(経営学科 2 年)、松田加音(同 2 年)、高橋良輔(同 2 年)、保坂佳秀(国際環境経済学科 2 年)、渡邊大翔(同 2 年)、宇枝桃花(同 1 年)、遠藤ゆきね(同 1 年)、高橋佐季(同 1 年)の 3 学科 11 名から構成されており、今年度は 3 回にわたって現地活動を行った。

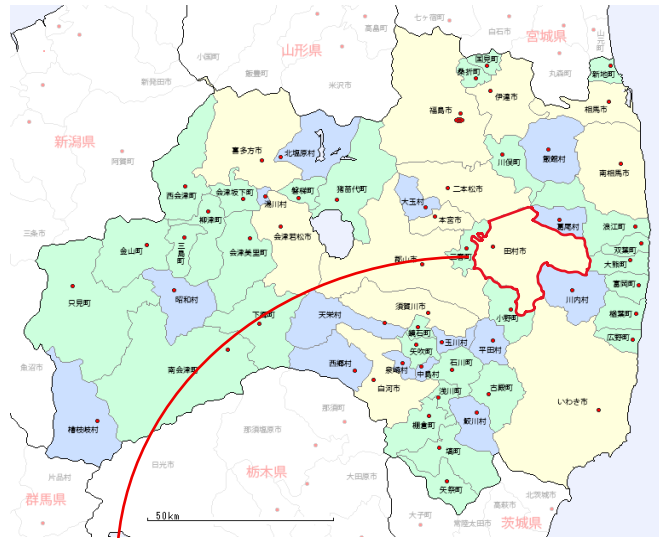
1 回目は、8 月 17 日(日)・18 日(月)に実施した。1 回目のメンバーは全員、今年度より新しく加入したメンバーであったため、「第 74 回灯籠流しと花火大会」に参加を通して、地区の雰囲気や抱えている課題を理解した。また、地区の地域資源である柿渋を活用した実証活動を行うことで、次年度以降に向けて、サポート事業に展開できる地域資源を発掘した。11 月 29 日(土)・30 日(日)に実施した 2 回目の現地調査では、長外路城跡にて、8 月に収穫し発酵中である柿渋の発酵状態の確認をした。また、田村市が有する「昆虫の聖地」という地域資源を活かし、カブトムシ幼虫の養殖事業を支えるため、飼育に用いる落ち葉集めにも協力した。12 月 6 日(土)・7 日(日)に実施した 3 回目の現地調査では、薪の里ながとろにて、カブトムシ幼虫の養殖事業用いる落ち葉集めに協力すると共に、乾燥薪販売に使用する薪の薪割りを協力した。また、今年度は地区の魅力を発信するため、地区の住民 4 名の方へインタビューを初めて実施した。このように、今年度は昨年度以上に幅広い方々と関係の構築をすることができたと実感している。

本報告書において、獨協大学地域活性化プロジェクト長外路チームにおける今年度の活動実績について報告する。第 2 節では、田村市船引町長外路行政区の概要、第 3 節で長外路地区の現状、第 4 節で今年度の活動実績を報告すると共に振り返り点検評価を行う。そして、第 5 節で長外路地区の課題を整理した上で、第 6 節で次年度の活動計画案についてまとめる。

## 2. 田村市船引町長外路行政区の概要

福島県田村市の位置は図表 1 の通りである。福島県の中通りに位置している。長外路地区が位置する船引町は田村市の北西に位置しており、船引町には 8 つの地区(船引・文珠・美山・瀬川・移・芦沢・七郷・要田)があり、長外路地区は美山地区に属している(図 2 参照)。つまり、長外路地区は田村市の北西端に位置していることになる。美山地区は瀬川地区の南隣に位置し、長外路行政区は<sup>かのまた</sup>鹿又 1 区、鹿又 2 区、鹿又 3 区と並んで、船引町美山地区を構成している。図表 3 のイラストを見ると、長外路地区は美山地区の一番北の瀬川地区と接する場所にあることがわかる。

図表 1. 福島県田村市の位置



[出典]47 都道府県の地図「福島県の地図」(<https://uub.jp/47/fukushima/map.html>)を参照。

図表 2. 田村市における美山地区の位置  
船引町美山地区



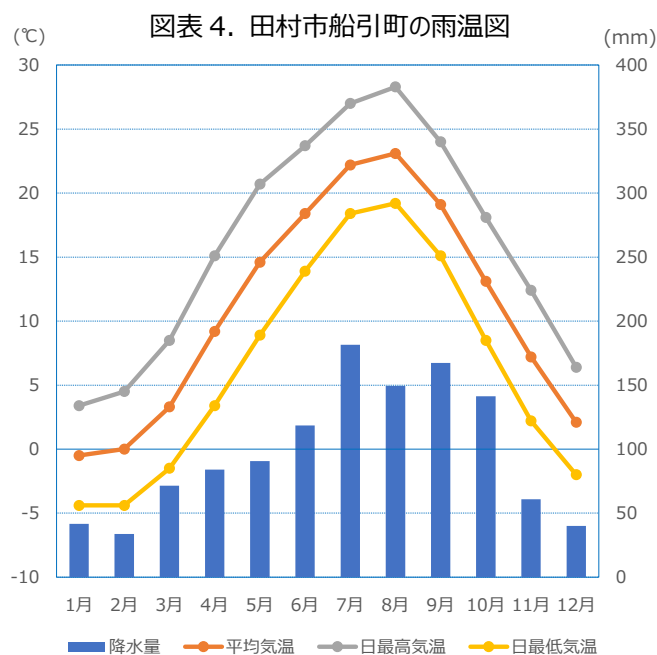
[出典] <sup>みやまびさん</sup>美山 美山 物語作成委員会編「美山美山物語～移ヶ岳由来から～」(平成 22 年度福島県地域づくり総合支援事業)(2011 年 3 月)、16 ページより引用。

図表 3. 田村市船引町美山地区における長外路行政区の位置



[出典]美山 美山 物語作成委員会編「美山美山物語～移ヶ岳由来から～」(平成 22 年度福島県地域づくり総合支援事業)(2011 年 3 月)、2～3 ページより引用。

田村市の気候は、太平洋岸式気候に属しながらも、年間の気温較差が大きい。また降雨・降雪量は少ない内陸性気候の特徴を持っている。寒候期においても、連続した降雪期間は短い。図表 4 は田村市船引町の雨温図であり、1991～2020 年の平年値を示したものである。田村市は阿武隈高原の中央に位置し、船引町の気温は、田村市役所(田村市船引町船引字畑添 76 番地 2)で標高が 408m と 1、高原に位置することから夏期でも日最高気温の月平均が 30℃を超えない。冬期の日最低気温の月平均も -5℃を下回らず、船引町ではそれほどの冷え込みもなく、過ごしやすい気候のように見える。ただし、2025 年の日最高気温が 30℃を超えている真夏日は、5 月 31.1℃、6 月 32.8℃、7 月 36.1℃、8 月 35.0℃、9 月 35.4℃となっていて 2、地球温暖化の影響が表れている。長外路行政区は標高が 475.7m と市役所の位置するところからさらに標高が高いため、もう少し気温の折れ線は下方に位置すると思われる。



統計期間: 1991～2020

[出典]気象庁ホームページ「船引(福島県)平年値(年・月ごとの値)主な要素」(以下の URL)を参照して作成。  
[https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/nml\\_amd\\_ym.php?prec\\_no=36&block\\_no=0294&year=2018&month=3&day=&view=p1](https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/nml_amd_ym.php?prec_no=36&block_no=0294&year=2018&month=3&day=&view=p1)(最終閲覧日:2026 年 2 月 21 日)

1 こおりやま広域連携中枢都市圏「構成市町村データブック」(2020 年 1 月)(以下の URL)の「④田村市」を参照。(https://www.city.tamura.lg.jp/uploaded/attachment/20907.pdf)  
田村市域全域でみると、平均標高 478m、最低標高 197m、最大標高 1,175m となっている。  
田村市地形図(https://ja-jp.topographic-map.com/map-z69c3q/%E7%94%B0%E6%9D%91%E5%B8%82/?center=37.38568%2C140.56804)を参照。

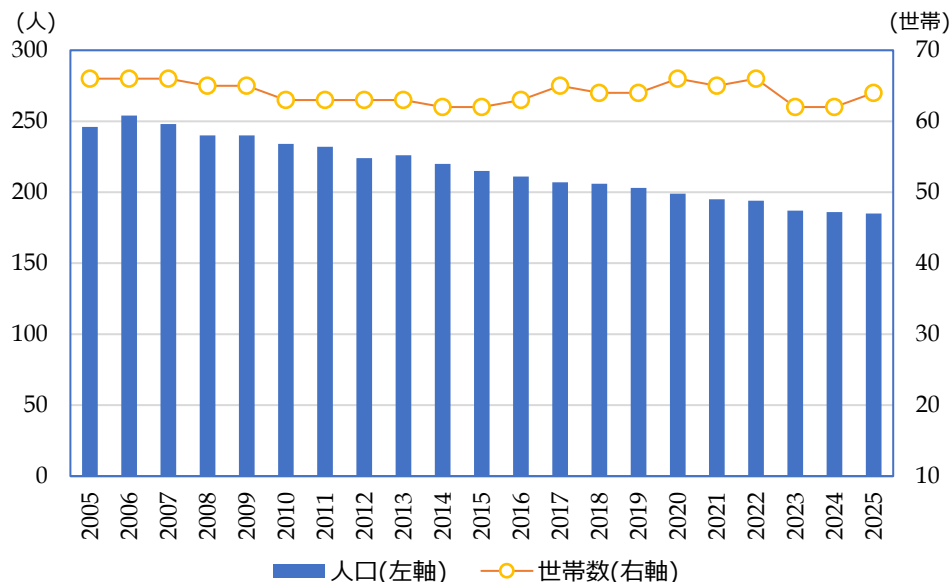
2 気象庁ホームページ「船引(福島県)2025 年(月ごとの値)主な要素」(以下の URL)を参照。  
(https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/monthly\_a1.php?prec\_no=36&block\_no=0294&year=2025&month=4&day=&view=)

### 3. 田村市船引町長外路行政区の現状

図表 5 は 2005 年以降の長外路行政区の人口推移を掲載している。長外路行政区における 2025(令和 7)年 10 月 1 日時点の人口は 185 人であり、男性が 92 名、女性が 93 名である。2005(平成 17)年以降の推移をみると、2005(平成 17)年の 246 人から 2006(平成 18)年には 254 人でピークを付けたのち減少の一途を辿り、2020(令和 2)年には 200 人を切って、人口減少に歯止めがかからない。また、長外路行政区の 2025(令和 7)年 10 月 1 日時点の総世帯数は 64 世帯であり、平均世帯人数は 2.89 人となっている。2005(平成 17)年以降の推移をみると、2005(平成 17)年の 66 世帯からほぼ横ばいで推移していて、人口減少ほどの減少は見られない。

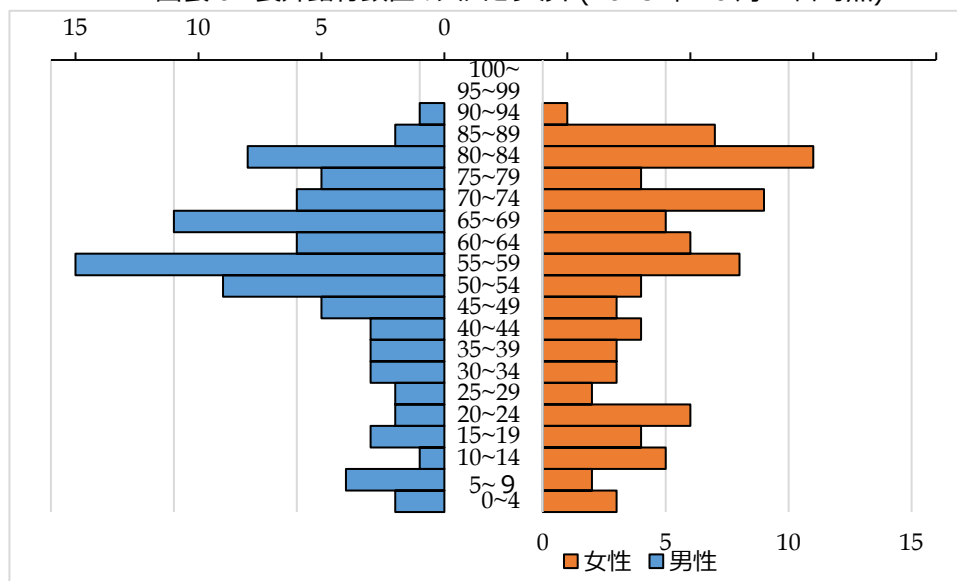
図表 6 では、2025(令和 7)年 10 月 1 日時点の長外路行政区における人口ピラミッドである。男性は 55～64 歳の区分が多くなっているのに対して、女性は 80～84 歳が多くなっている。出産適齢期の 25～34 歳の女性が極端に少なくなっていることは、この地区に新生児がそれほど期待できないことを意味している。とくに男性 44 歳以下、女性の 54 歳以下の区分の人口が極端に少ないので、今後 10～30 年で急激に人口が減少してしまうことが予想される。

図表 5. 2005～2025 年の長外路行政区の人口と世帯数の推移



[出典]田村市企画調整課提供の「田村市行政局及び行政区別人口、世帯一覧(H17～R7)」より作成。

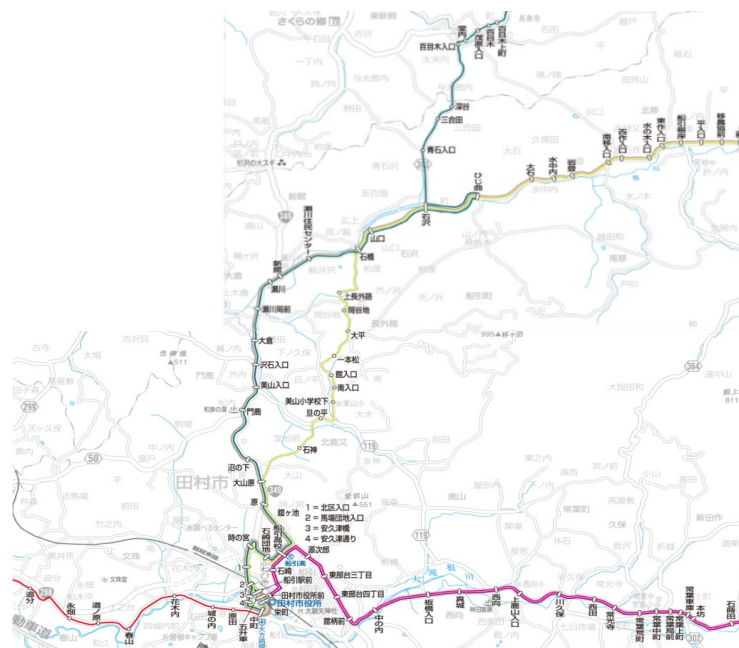
図表 6. 長外路行政区の人口ピラミッド(2025 年 10 月 1 日時点)



[出典]田村市企画調整課提供の「田村市住民基本台帳人口\_10.1 人口(1 歳刻み)」より作成。

地区への公共交通手段としては、福島交通による路線バスが運行されていて、図表 7 に示した。地区を通るバス路線は黄緑色の路線で、「船引大平」「岡谷地」「上長外路」の 3 つのバス停である。しかし、図表 8 に示した通り、1 日 1 往復のみの運行しておらず、地元の方々にとってみれば、自家用車がなければ生活は難しいというのが現状である。

図表 7. 長外路行政区を通る路線バスの路線図



[出典]福島交通株式会社「福島交通路線図：三春・船引(二本松)」および「福島交通路線図：移」(以下の URL)から地図をダウンロードし合成して作成。(https://busget.fukushima-koutu.co.jp/bus/map/03niho\_12.html), (https://busget.fukushima-koutu.co.jp/bus/map/03niho\_15.html#hunehiki)

図表 8. 船引駅⇄長外路行政区内バス停の発着時刻と運賃

| 行先   | 上長外路            | 岡谷地             | 船引大平            | 船引駅前            | 所要時間 | 運賃    |
|------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|------|-------|
| 船引駅前 | 7:28<br>(8:00)* |                 |                 | 7:48<br>(8:20)* | 20 分 | 510 円 |
|      |                 | 7:29<br>(8:01)* |                 |                 | 19 分 | 510 円 |
|      |                 |                 | 7:30<br>(8:02)* |                 | 18 分 | 460 円 |

| 行先            | 船引駅前  | 船引大平  | 岡谷地   | 上長外路  | 所要時間 | 運賃    |
|---------------|-------|-------|-------|-------|------|-------|
| 上移<br>[長外路経由] | 17:25 | 17:46 |       |       | 21 分 | 460 円 |
|               |       |       | 17:47 |       | 22 分 | 510 円 |
|               |       |       |       | 17:48 | 23 分 | 510 円 |

[出典]福島交通株式会社「発着時刻・運賃検索」(以下の URL)より作成。(注)\*括弧内は祝休日(土曜、日曜、祝日)(<https://busget.fukushima-koutu.co.jp/fromto/#busget>)(最終閲覧日:2026 年 2 月 20 日)

#### 4. 今年度の活動実績と評価

##### 4.1. ミーティングの開催

学生メンバー間や集落の方々との意思疎通を図るため、図表 9 の通り、オンラインで計 5 回、オフラインで 3 回の計 8 回のミーティングを実施した。

図表 9. 2025 年度 ミーティング開催一覧

| 日付                  | 内容                                                                             | 参加者                |
|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 2025/5/21<br>オフライン  | 第 1 回 キックオフ MTG<br>学生メンバーの顔合わせ(自己紹介)/今年度の活動方針の確認/今後の活動に向けての打ち合わせ               | 学生：9 人             |
| 2025/5/26<br>オンライン  | 第 2 回 現地の方との顔合わせ MTG<br>自己紹介(学生&現地の方)/「実証活動応募申請書」の確認/今後の活動方針の確認                | 現地：4 人<br>学生：8 人   |
| 2025/7/24<br>オンライン  | 第 3 回 現地活動前 MTG<br>1 回目の現地活動の実施内容の検討と調整                                        | 現地：2 人<br>学生：4 人   |
| 2025/9/29<br>オンライン  | 第 4 回 今後の方針に関する MTG<br>現地より柿渋へ向けた柿の収穫と今後の方針の協議/地区からの依頼で住民の方へのインタビューが実施/今後の日程確認 | 現地の方：3 人<br>学生：3 人 |
| 2025/10/22<br>オフライン | 第 5 回 住民インタビューへ向けた準備 MTG<br>現地での活動内容変更の報告/住民インタビュー準備                           | 学生：4 名             |
| 2025/11/27<br>オンライン | 第 6 回 現地活動前 MTG<br>2 回目、3 回目の現地活動の実施内容の最終調整                                    | 現地の方：2 人<br>学生：2 人 |
| 2026/1/9<br>オンライン   | 第 7 回 活動終了へ向けた MTG<br>活動報告会 発表資料の共有/「業務実施報告書」作成に関する連絡                          | 学生：4 名             |
| 2026/2/10<br>オフライン  | 第 8 回 活動報告会前 MTG<br>活動報告会前の前日最終打ち合わせ                                           | 学生：3 名             |

今年度は 5 月から活動を開始し、8 月、11 月、12 月に実施した計 3 回の現地調査に向け

て、学生のみでの打ち合わせに加え、地区の方々とのオンラインミーティング(Zoom)を実施してきた。今年度は、昨年度の反省を踏まえ、地区の方々との積極的なコミュニケーションの強化を意識して活動を行った。一方で今年度の反省点として、昨年度に引き続き、オンラインミーティングへの学生の参加者にばらつきが生じた点が挙げられる。この課題への対応として、今後は予定が合わなかった学生メンバーに対して、別日で補足ミーティングを実施するとともに、連絡と情報共有をこまめに行うことで、メンバー間の共通認識を維持しながら活動を進めるよう努めたい。

#### 4.2. 第1回現地活動

第1回現地活動は、8月17日(日)・18日(月)に実施し、学生5名が参加した。活動内容は図表10の行程表のとおり、1日目は現地へ到着後、「第74回灯籠流しと花火大会」へ参加した。2日目には長外路城跡において、地区の地域資源である柿渋の実証活動に向けた状況確認と長外路城前にある田んぼにて生態調査を行い、次年度以降のサポート事業への展開を見据えた地域資源の発掘を実施した。また併せてキエーロの製作に協力した。

図表 10. 第1回現地活動の行程表

| 時程                      | 行程                                                    |
|-------------------------|-------------------------------------------------------|
| 8月17日(日)<br>10:05～10:58 | 東北新幹線 やまびこ 55号(盛岡行)<br>大宮発～郡山着                        |
| 11:17～11:44             | JR 磐越東線(小野新町行)<br>郡山発～船引着                             |
| 12:00～                  | 現地スタッフと合流し、船引駅から昼食場所まで徒歩移動<br>昼食(エビス食堂)               |
| 13:00～                  | 灯籠づくりワークショップ(船引小学校体育館前)<br>※一部の灯籠の内容は「長外路地区及び獨協大学のPR」 |
| 16:00                   | 宿泊先(旅館松月)チェックイン                                       |
| 18:30                   | 大会本部(吉田印刷駐車場近辺)にて関係者に挨拶                               |
| 挨拶後～20:00               | 灯籠流しと花火大会 夕食を兼ねてフリー                                   |
| 20:00～                  | 宿泊先に戻り、入浴後、就寝                                         |
| 8月18日(月)<br>7:00        | 朝食                                                    |
| 8:00                    | 現地に向けて現地スタッフによる送迎により出発→佐藤行政区長へ挨拶                      |
| 8:15～12:00              | 長外路地区渋柿等の視察・キエーロワークショップ(長外路城跡)                        |
| 12:00～13:00             | 昼食(素麺と季節野菜のてんぷら)                                      |
| 13:00～15:00             | キエーロワークショップ(長外路城跡)→長外路城前の田んぼで生物の生態調査                  |
| 15:00～15:25             | 現地活動の振り返り                                             |
| 15:25～                  | 船引駅に向けてアテンドによる送迎により出発<br>JR 磐越東線(郡山行)                 |
| 15:55～16:22             | 船引発～郡山着                                               |
|                         | 東北新幹線 やまびこ 216号(東京行)                                  |
| 16:38～17:51             | 郡山発～大宮着                                               |

#### 4.2.1. 「第 74 回 灯籠流しと花火大会」への参加

「灯籠流しと花火大会」は、田村市船引町において、毎年 8 月に開催される伝統的な夏祭りである。今年度は 8 月 17 日(日)に開催され、会場は大滝根河畔にて開催された。入場は無料であり、当日は地元住民に加え多くの観光客が訪れ、会場は大変な賑わいを見せていた。灯籠流しでは、夕方頃から参加者がそれぞれの想いを込めて灯籠を準備し、大滝根川へ灯籠を浮かべる活動が行われた。2,000 個以上の灯籠が川面をゆっくりと流れ、夕暮れから夜にかけて揺らめく光が広がり、幻想的な景観を生み出していた。その後、灯籠流しの途中から花火大会が開始され、20 時頃から約 1,000 発の花火が打ち上げられた。色とりどりの花火が夜空を彩るとともに、川辺一帯を明るく照らし出し、来場者を大いに魅了していた。実際に参加して、灯籠のやさしい光が水面に反射する様子は非常に幻想的であり、地域の文化や人々の想いが感じられる時間であった。また花火大会へ参加しながら、地区の方々との交流を通して、地区の雰囲気をより理解することができた。

写真 1. 灯籠をデザインしている様子



写真 2. 灯籠流しと花火大会の様子



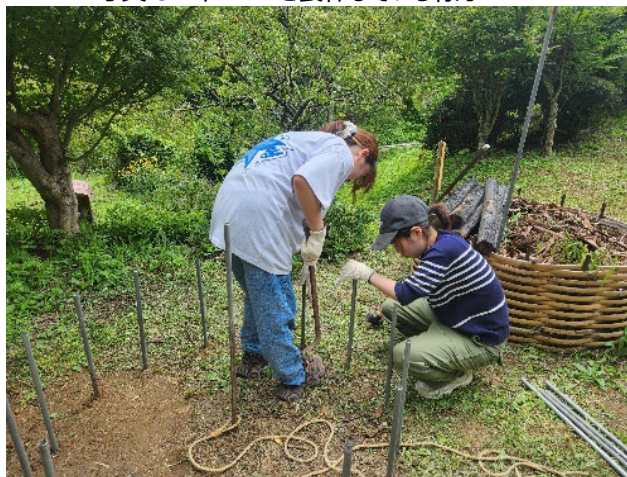
[出典]メンバーが撮影(以下、とくに記載にないものはメンバーが撮影したものである)。

#### 4.2.2. キーロの製作協力

キーロの作成協力は 2 日目の 8 月 18 日(月)に実施した。キーロとは、黒土に含まれる微生物の働きを活用し、生ごみを分解と消滅させる非電動式生ごみ処理容器である。はじめに、中心となる地点に杭を打ち込み、その点を基準として等間隔かつ各頂点間の距離が均等となるよう周囲に杭を設置する。これにより、囲いの基礎となる骨組みが完成する。続いて、竹を杭の内側と外側で交差させながら編み込む作業を行った。この際、1 つの竹を編み終えるごとに編み始める頂点を順にずらすことで、全体の強度を保ちながら均一に囲いを設置した。編み込みを進め、杭の先端がわずかに見える程度の高さに達した段階で作業を終

了し、竹で作成したキエーロの囲いの内部に、周辺から運搬した枝を適度な長さに切りそろえてから投入する。さらに、内部がおよそ半分ほど埋まった時点で落ち葉を加え、内部構造を整えた。

写真 3. キエーロを製作している様子



#### 4.2.3. 田んぼでの生態調査

8月18日(月)、「薪の里ながとろ」と「長外路城跡」の間に位置する田んぼ「ゲンゴロウの里」(田村市船引町長外路瀬戸ノ久保 2)において、生態調査を実施した。長外路地区における自然生物の生態系を観察と把握することを目的に、虫取り網を使って水中をすくい上げる方法で実施した。具体的には、田んぼの浅い水域や稲株周辺など、エビ類が隠れやすい場所に網を入れ一定時間、水中をかき回すことで捕獲を行った。採取後は、確認できたエビ類について種類や大きさから、田んぼにおける水環境および生物多様性との関連性について観察を実施した。

写真 4. 田んぼでの生態調査の様子①



写真 5. 田んぼでの生態調査の様子②



#### 4.3. 第2回現地活動

第2回現地活動は、11月29日(土)・30日(日)に実施した。活動内容は図表11の行程表のとおりである。地域の魅力を効果的に発信することを目的として、前々区長の佐藤篤恵氏と一般社団法人 nononowa 代表理事(元田村市地域おこし協力隊) 中山真波氏の2名へインタビューを実施した。また、地区内に豊富に存在する柿を活用して柿渋の商品化を目指す実証活動において、発酵状況の確認と今後について長外路城を管理する nononowa 代表の中山氏と協議した。さらに、田村市が有する「昆虫の聖地」という地域資源を活かした取り組みとして、長外路城跡で進めているカブトムシ幼虫の養殖事業を支援するため、昆虫飼育に用いる落ち葉の収集作業に協力した。

図表 11. 第2回現地活動の行程表

| 時程          | 行程                                                                         |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 11月29日(土)   |                                                                            |
| 10:05～10:58 | 東北新幹線 やまびこ 55号(盛岡行)<br>大宮発～郡山着<br>JR 磐越東線(小野新町行)                           |
| 11:17～11:44 | 郡山発～船引着                                                                    |
| 11:45～12:00 | 船引駅から昼食場所まで徒歩移動                                                            |
| 12:00～13:00 | 昼食(エビス食堂)                                                                  |
| 13:00～13:15 | アテンド車(佐藤氏・鈴木氏)で移動                                                          |
| 13:30～15:30 | 長外路地区住民インタビュー:佐藤篤恵氏(前々行政区長)のお宅を訪問                                          |
| 16:00～17:00 | 針湯荘送迎車で移動・チェックイン                                                           |
| 11月30日(日)   |                                                                            |
| 8:00        | 針湯荘チェックアウト                                                                 |
| 8:10～ 8:50  | 針湯荘送迎車で移動                                                                  |
| 9:00～       | 地区の方のアテンド車で瑞峰平見学                                                           |
| 10:00～12:30 | 長外路城跡(古民家カフェ nononowa)<br>柿渋活用プロジェクト進捗状況確認<br>長外路地区インタビュー:中山真波氏(元地域おこし協力隊) |
| 12:30～13:30 | 昼食                                                                         |
| 13:30～15:00 | 昆虫飼育に用いる落ち葉集めに協力                                                           |
| 15:00～15:30 | 振り返り                                                                       |
| 15:30～15:45 | 地区の方のアテンド車で船引駅へ移動                                                          |
| 15:55～16:22 | JR 磐越東線(郡山行)<br>船引発～郡山着                                                    |
| 16:38～17:51 | 東北新幹線 やまびこ 216号(東京行)<br>郡山発～大宮着                                            |

##### 4.3.1. 柿渋を活用した実証活動

2025年8月中旬、地区の方々が柿渋の実証活動に向けて、すでに大量の渋柿を収穫していた。写真6～9は、そのときの収穫の様子がわかる写真である。収穫後の柿は細かく砕き、発酵を促進するために少量の酒を加えた上でポリタンクに保管し(写真10)、11月末に現地

に伺った際には発酵が進んでいた。

写真 6. 柿を収穫している様子



写真 7. 収穫した柿を軽トラで運ぶ



写真 8. 収穫した柿をヘタを取って細かく砕く



写真 9. 細かく砕いた渋柿



[出典]すべて中山真波氏が撮影した写真を提供していただいた。

11月30日時点では、柿の発酵状況は、ジュースのような状態となっていたことから、発酵が順調に進んでいることが確認できた(写真 11)。今後も引き続き発酵を継続するとともに、次年度には田村市内の地域企業と協働し、商品化に向けた準備を進める方針で決定した(写真 12)。

写真 10. 柿渋が入ったポリタンク



写真 11. 柿渋の発酵状況



写真 12. 柿渋の今後について中山氏と協議



#### 4.3.2. 長外路城跡における「落ち葉集め」の実施

11月30日(日)の午後には、長外路城跡において落ち葉集めの活動を実施した(写真13)。参加者は二手に分かれ、一方はヤギの小屋となる予定の柵内で落ち葉を集め、袋に詰める作業を行った。この作業では、ほうきを使って落ち葉を集める担当と、それを袋に詰める担当に分かれて効率的に作業を進めた。もう一方のグループは、落ち葉を下に落とす作業を行った。

活動を通して、落ち葉集めは一見簡単な作業に思えたが、全身を使う作業であり、短時間でも非常に疲れることを実感した。また、袋に落ち葉を詰める際は、袋の上から圧縮することでより多くの落ち葉を収納できることがわかった。

写真 13. 落ち葉集めの様子①



写真 14. 落ち葉集めの様子②



写真 15. 落ち葉集めの様子③



写真 16. 落ち葉を袋に詰めた様子



#### 4.4. 第 3 回現地活動

第 3 回現地活動は、12 月 6 日(土)・7 日(日)に実施した。活動内容は図表 12 の行程表のとおりである。「薪の里ながとろ」にて、カブトムシ幼虫の養殖事業用いる落ち葉集めに協力した。また、乾燥薪販売に使用する薪の薪割りを協力した。前回から引き続き、地域の魅力を効果的に発信することを目的として、前区長 佐久間嘉彦氏と薪の里ながとろ園主 佐藤満雄氏の 2 名へインタビューを実施した。

図表 12. 第 3 回現地活動の行程表

| 時程          | 行程                   |
|-------------|----------------------|
| 12 月 6 日(土) | 東北新幹線 やまびこ 55 号(盛岡行) |

|             |                                                         |
|-------------|---------------------------------------------------------|
| 10:05～10:58 | 大宮発～郡山着<br>JR 磐越東線(小野新町行)                               |
| 11:17～11:44 | 郡山発～船引着                                                 |
| 11:50～12:00 | 船引駅から昼食場所まで徒歩移動                                         |
| 12:00～13:00 | 昼食(エビス食堂)                                               |
| 13:00       | 田村市役所北口駐車場                                              |
| 13:00～13:15 | アテンド車(佐藤氏・鈴木氏)で移動                                       |
| 13:30～14:30 | 長外路地区住民: 佐久間嘉彦氏(前区長)のお宅を訪問                              |
| 14:30～16:30 | 長外路公民館(田村市船引町長外路字鹿喰田 99)                                |
| 16:30～17:10 | 針湯荘送迎車で移動                                               |
| 18:30       | 針湯荘チェックイン<br>夕食                                         |
| 12月7日(日)    |                                                         |
| 7:00        | 朝食                                                      |
| 8:00        | 針湯荘チェックアウト                                              |
| 8:10～ 8:50  | 針湯荘送迎車で移動                                               |
| 9:00～12:30  | 薪の里ながとろ<br>園内・ビオトープ見学<br>長外路地区インタビュー: 佐藤満雄氏(薪の里ながとろ管理者) |
| 12:30～13:30 | 昼食                                                      |
| 13:30～15:00 | 薪割り体験や園内環境整備等に協力                                        |
| 15:00～15:30 | 振り返り                                                    |
| 15:30～15:45 | アテンド車(佐藤氏・鈴木氏)で船引駅へ移動                                   |
|             | JR 磐越東線(郡山行)                                            |
| 15:55～16:22 | 船引発～郡山着                                                 |
|             | 東北新幹線 やまびこ 216 号(東京行)                                   |
| 16:38～17:51 | 郡山発～大宮着                                                 |

#### 4.4.1. 薪の里ながとろにおけるカブトムシ幼虫飼育に用いる「木葉さらい」

12月7日(日)、「薪の里ながとろ」において将来的に田村市内の昆虫テーマパーク「ムシムシランド」へ提供されるカブトムシ幼虫の養殖事業に活用される落ち葉の収集作業に協力した(写真 17)。落ち葉は幼虫の育成環境に不可欠な資源であり、作業中に確認したコンポスト内には、多数のカブトムシ幼虫がすでに生育していることが確認できた(写真 18)。

写真 17. 落ち葉集めの様子



写真 18. コンポストのカブトムシの幼虫



田村市は「昆虫の聖地」とも称される一方で、ムシムシランドで飼育される昆虫の一部は市外から調達されている現状がある。今回の活動を通じて、昆虫の地産地消を目指す取り組みは、地域資源の循環利用を促進するだけでなく、観光と産業の両立を図る新たな地域活性化モデルとなり得る可能性があることを強く感じた。

#### 4.4.2. 薪割り体験

12月7日(日)、「薪の里ながとろ」にて乾燥薪販売に使用する薪の薪割りを体験した(写真19、20)。まず、薪割りのコツについて指導を受け、腰を落として足を肩幅程度に広げ、力任せではなく斧の重さを利用して薪を割る方法を学んだ。佐藤満雄氏の乾燥した薪の在庫がない場合には仕事を受けないという姿勢からは、品質を最優先する真摯な取り組みを感じた。一方で、需要の高まりに対して供給が追いついておらず、生産体制の制約からオンライン販売を一時停止している現状も把握した。今回の活動を通じて、柿渋事業とあわせて関係者と連携しながら、より持続可能で効果的な運営体制の構築に寄与できる可能性を強く感じた。

写真 19. 薪割り体験の様子①

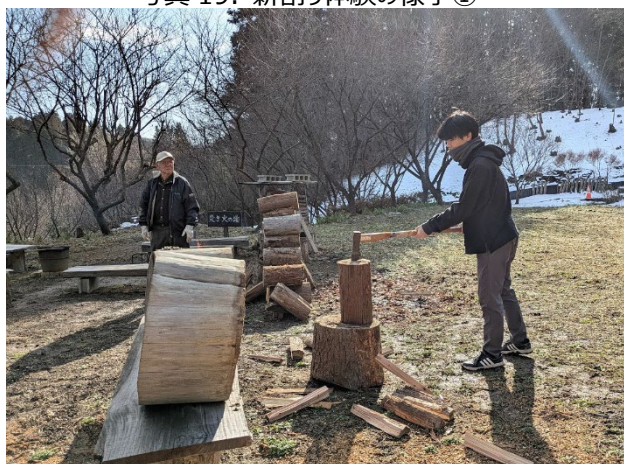


写真 20. 薪割り体験の様子②



#### 4.5. 住民インタビューの実施

地域の魅力を効果的に発信することを目的として、11月および12月の2回にわたり、地域住民へのインタビュー調査を実施した(写真21)。インタビュー対象は、前々行政区長の佐藤篤恵氏と前行政区長の佐久間嘉彦氏、元田村市地域おこし協力隊の中山真波氏、薪の里ながとろ管理者の佐藤満雄氏の計4名である。

写真 21. 住民インタビューの様子



[出典]11 月 29 日撮影(美山地区在住 鈴木俊栄氏より提供)

インタビューでは、以下の質問事項を設定した。

- ①長外路で魅力的だと思うところは何か、また後世に伝えたいことは何か(場所や思い出)
- ②長外路で生活する上で不便や大変に感じることはあるか(通院、若者不足、地域行事等)
- ③学生や他地域など外部の人と関わった経験で、良かった点や難しかった点は何か
- ④10 年後、長外路が理想的に発展しているとしたら、どのような姿を思い描くか

図表 13 には、4 名のインタビューの結果をまとめている。長外路地区はコンビニがなく、バスの本数も少ないことから、生活の不便さを感じる一面があることが分かった。ただし、多くの住民は車で生活が中心であり、市街地(船引駅周辺)まで 10～15 分程度で移動できるため、不便には感じてはいないとの回答も得られた。一方で、車がない場合は生活が困難になる現状も明らかとなった。また、地区の活性化よりも、まずは現在の地域の維持を最優先したいと考える住民が多いことも分かった。今後は、次年度に向けて地区全員を対象とした実態調査へと拡大し、より包括的な地域の理解と支援につなげていく予定である。

図表 13. 4 名のヒアリング事項まとめ

| ①前々行政区長<br>(造園業)                                                                                                                  | ②元地域おこし協力隊<br>(nononowa 代表)                                                                                                        | ③前区長<br>(滞納者の支援)                                                                                                                | ④薪の里ながとろ<br>管理者                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Q:地区の魅力<br>→コミュニティが狭い<br>こと<br>Q:地区の不便な点<br>→ない！※車が必要<br>Q:外部との関わり<br>→関わりはある。大学<br>生など。しかし、世<br>代ギャップを感じて<br>しまう・・・<br>Q:10 年後の姿 | Q:地区の魅力<br>→自然の豊かさ<br>Q:地区の不便な点<br>→車が必須である<br>Q:外部との関わり<br>→関わりはある。しか<br>し、地区へのアクセ<br>スが悪い点が課題で<br>ある。<br>Q:10 年後の姿<br>→今の地区の状態を現 | Q:地区の魅力<br>→何もないのが魅力<br>Q:地区の不便な点<br>→ないが、車が必要<br>→返納後の生活が不安<br>である。<br>Q:外部との関わり<br>→ない<br>Q:10 年後の姿<br>→人口減少が今以上に<br>進んでいると思う | Q:地区の魅力<br>→自然が豊かである<br>Q:地区の不便な点<br>→車が必須である<br>Q:外部との関わり<br>→限られた時間ではあ<br>るが、関わりはあ<br>る。<br>Q:10 年後の姿<br>→地域資源を活かした<br>活性化。 |

|                                                |                                               |                                     |                                              |
|------------------------------------------------|-----------------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------------------|
| →人口減少が進んでいると思う<br>Q:これから地区に必要なこと<br>→現状維持をすること | 状維持すること。<br>Q:これから地区に必要なこと<br>→現在の自然を大切にすること。 | Q:これから地区に必要なこと<br>→今の地区の状態を現状維持すること | Q:これから地区に必要なこと<br>→人口減少は止まらないが、この地区の未来は暗くない！ |
|------------------------------------------------|-----------------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------------------|

[出典]11月29日(土)・30日(日)、12月6日(土)・7日(日)にそれぞれ実施したヒアリングの回答をメンバーが整理したものである。

収集した内容を基に、12月末までに新聞形式の記事(図表14)を作成し、Instagramおよび回覧板を通して地元の方々へ情報発信を行った。

図表 14. Instagramと回覧板で配布した新聞

| 福島県「大学生と集落の協働による地域活性化事業」<br>獨協大学 地域活性化プロジェクト 長外路チーム                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |  | ヒアリング調査 実施報告                                                                                                                                                                                                                                     |  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <b>事業概要</b><br>人口減少や少子高齢化が進む地域では、担い手不足などにより、地域住民だけでは集落の活動を維持することが難しくなっています。本事業では、福島県内の集落が、大学生の持つ新しい視点や行動力、専門知識など「外からの力」に交流・協働を通して、地域の復興や活性化を図り、将来的に地域を支える「集落応援団」の育成を目指しています。<br>獨協大学では、2024年度に「大学生の力を活用した集落復興支援事業」において「地域活性化プロジェクト長外路チーム」が採択されました。現在2年目を迎え、所属する学生は10名からなり、これまで5回にわたって、現地調査を実施してきました。                                                                                                                                                                                                                                                                                             |  | 今年度は長外路地区に関するヒアリング調査を、2回にわたり計4名の方に実施しました。地域の現状や課題、今後の地域に向けたご意見やニーズを把握することを目的としています。                                                                                                                                                              |  |
| <b>活動紹介</b><br><2024/9/14-15><br>【薪の里ながとろ】ビオトープの生き物や管理方法の講義<br>【ムシムシランド】昆虫採取、標本作り体験と地域おこし協力隊の方による聴講<br><2024/10/26-27><br>【長外路公民館】自主防災組織避難訓練の活動支援・交流会に参加<br>【長外路地区】再生WSへの参加(ブラックベリーの移植、大甕により割れた地面の強化作業)<br><2025/2/8><br>【2024年度活動報告会】2月に福島市で開催された「活動報告会」に参加<br><2025/6/17-18><br>【第74回打簾流しと花火大会】住民との交流を通して地区が抱える課題を共有<br>【長外路地区】地区の地域資源である流石を活用した実証活動の実施。また、コンポストの作成にも取り組む<br><2025/11/29-30><br>【インタビュー①】前々行政区長と元地域おこし協力隊の2名へインタビューの実施<br>【長外路地区】カブトムシ幼虫の養殖事業で昆虫飼育に用いる「落ち葉集め」に協力<br><2025/12-6-7><br>【インタビュー②】薪の里ながとろ管理者と前行政区長の2名へインタビューの実施<br>【薪の里ながとろ】カブトムシ幼虫の養殖事業で昆虫飼育に用いる「落ち葉集め」に協力と薪作り体験。 |  | <b>元地域おこし協力隊・nononowa代表</b><br>長外路地区を管理しており、都心に近い自然の豊かさを魅力と述べてください。また、市内で生産者がわずか2名となったナツハゼについて、その生産継続と販路拡大に力を入れている。長外路地区で生活する上では、車とインターネットの普及により、不便に感じない一方で、公共交通の確保は課題であることを指摘していた。現在の地区の空回りを無駄な形で事業を進められており、今ある資源に対して活気を与えるような形を重視されている。        |  |
| <b>次年度に向けて</b><br>次年度は事業3年目となり、「大学生の力を活用した集落復興支援事業」から「集落自主活動に係る伴走支援事業（サポート事業）」へ移行します。サポート事業とは、活用を検討する集落等が、年度末（2月）の申請を見送って行う準備に対し、支援を実施する形となります。これにより、これまで以上に実践的な活動が可能になると考えています。<br>次年度は、今年度の活動を通して地区の課題を共有し、活かしていく。精進を活用した実証活動を継続していきたいと考えています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |  | <b>前々行政区長</b><br>前々区長によると、長外路地区の魅力は、住民同士の繋がりが一方、若い人は別のコミュニティになっており、世代間ギャップが生まれ、後世への伝統などの継承に課題があると述べていた。日常生活が便利になったものの、地域間の繋がりが希薄になっていることを危惧されていた。今後10年間で住民同士の繋がりをどのように維持するのかが重要だと述べた。                                                            |  |
| <b>薪の里ながとろ 管理者</b><br>薪の里ながとろは、「長外路は自然が豊かだが、これは観光地には、ならない」と述べていた。後世には「長外路を発展させる上では生半可な気持ちでは絶対に振替するで、やるからには一生懸命にやるべきだ」と述べた。利便性についても自動車があれば問題ないとのことである。他地域との交流やボランティアの方は、限られた時間ではが関われないため、プライベートでも来てほしいと語っていた。<br>また、長外路地区の空回りは「空々しい」印象があり、住人と新しく住んだ方と関係を築き上げるに少し時間を要してしまっているが、長外路の未来は明るい、述べられている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |  | <b>前行政区長</b><br>前区長によると、長外路の魅力については、「何もなくてこそ魅力と語っていた。後世に伝えたいことは、「長外路の自然が溢れる景色や環境を大事なこと」と語った。一方、生活面での不便さについては、「免許返納後の生活が不安」と述べていた。外部から訪れる人々との交流については「若者とのギャップは感じたが、大変だった点などはない」と述べた。十年後の地域のことについては、「人口減少への対策が遅かった」と振り返り、今後今の現状をどう維持していくかが重要だと述べた。 |  |

#### 4.6. 学内のピザ窯イベントへの乾燥薪の無償提供

12月に開催された「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2025～Winter～”」において、ピザ窯で使用する乾燥薪を薪の里ながとろ管理者の佐藤満雄氏より無償で提供していただいた(写真22)。学内に保管されていた他の薪と比較しても、提供いただいた薪は火付きが非常に良く、煙の発生もほとんど見られなかったことから、薪の品質の高さを改めて実感する機会となった(写真23)。この経験を通じて、高品質な乾燥薪をオンライン販売や物産展で提供することで収益を確保し、県の支援事業が終了した後もチームの活動資金に

充てるビジネス展開の可能性を感じた。

写真 22.乾燥薪



写真 23. 乾燥薪が燃焼している様子



#### 4.7.「大学生と集落の協働による地域活性化事業」活動報告会

2月11日(水)、福島市の「コラッセふくしま」にて開催された「大学生と集落の協働による地域活性化事業」活動報告会に、塩田賢太郎、菅野泰輝、松田加音の3名が参加した。地区からは長外路地区在住で田村市市議会議員の佐藤重実氏が出席した。

報告会では図表16のように、過疎・中山間地域を中心とした集落で活動する大学生グループ16組が、それぞれ1年目の集落実態調査、2年目の集落活性化に向けた実証活動、3年目以降の地域活動の自走に向けた伴走支援などの取り組みを発表した。民俗学の視点から神社や伝統芸能の継承に関わり、住民との信頼関係を築きながら文化保存を実践してきたグループや、人口減少・高齢化による農業の担い手不足に取り組むグループ、地域資源を活かした商品開発や食品開発に取り組むグループなど、さまざまな事例を学ぶことができた。

共通して見られた課題としては、高齢化・人口減少・担い手不足が挙げられた。また意見交換の中では、伝統継承や情報発信の課題が共有され、住民との信頼構築や多様なPR手法の重要性も確認された。

活動報告会を通して得られた他グループの事例を参考にしつつ、今後も引き続き、長外路地区に適した形を模索しながら、活動を進めていきたいという考えを、会の最後に佐藤氏と共有した。

図表 15. 活動報告の様子



[出典]「令和7年度大学生と集落の協働による地域活性化事業活動報告会」  
(<https://www.youtube.com/live/bNRLYIFW584>)

写真 24. 活動報告会にて



## 5. 田村市船引町長外路行政区の抱える問題と課題

### 5.1. 実態調査が得られた問題点

今年度の現地調査、住民インタビュー、各種実証活動を通じて、長外路行政区が抱える課題が明らかとなった。

第1に、少子高齢化および人口減少の進行である。2005年以降、人口は減少傾向にあり、2025年10月時点では185人となっている。人口ピラミッドからも高齢層の割合が高く、今後さらに高齢化が進行することが予測される。この影響により、地区の祭り、草刈りといった共同作業などの担い手が減少し、地域行事の継続が難しくなる可能性がある。

第2に、交通手段の制約である。現在、長外路地区を通る路線バスは1日1往復のみであり、実質的には自家用車が生活の中心となっている。住民インタビューでは「車があれば不便ではない」という意見があった一方で、免許返納後の移動手段に対する不安も示された。高齢化が進む中で、交通弱者の増加は今後深刻な問題となる可能性がある。

第3に、地域資源の維持・管理の担い手不足である。長外路地区には、柿渋、落ち葉、竹、里山環境、長外路城跡、薪の里ながとろなど、多様な地域資源が存在している。しかし、それらを継続的に管理し活用していくには人的負担が大きい。例えば、カブトムシ養殖用の落ち葉集めや里山の整備作業は体力を要し、高齢化が進む地域においては負担が大きい活動である。

第4に、地域としての方向性に関する認識である。インタビューを通して、「大きく発展すること」よりも「今の地域を維持すること」を望む住民が多いことが分かった。これは外部から見た“活性化”のイメージとは必ずしも一致しておらず、地域の実情に即した支援のあり方を再検討する必要性を示している。

以上より、長外路地区の課題は単なる人口減少だけでなく、地域の持続可能性にあることが明らかとなった。

## 5.2. 取り組むべき課題

実態調査を踏まえると、長外路地区において優先的に取り組むべき課題は、「地域資源の維持・管理を軸とした持続可能な体制づくり」である。

まず重要なのは、「新たな開発」ではなく、「今あるものを守ること」である。長外路城跡の環境整備、落ち葉の回収、草刈り、ビオトープの維持など、現在行われている活動を無理のない形で継続できる仕組みを構築する必要がある。

次に、地域資源の循環利用の促進である。今回の活動では、落ち葉がカブトムシ養殖に活用されるなど、自然資源が循環的に利用されている事例を確認できた。また、柿渋の発酵や薪の活用など、未活用資源が新たな価値を生む可能性も見えてきた。これらを単発で終わらせるのではなく、地域内外と連携しながら持続的な事業へと発展させることが課題である。

さらに、外部との関係人口の拡大も重要である。地域住民だけで維持が難しい部分については、大学生や外部支援者が関わることで補完できる可能性がある。そのためには、長外路の「日常の魅力」を適切に発信し、共感を得ることが不可欠である。

したがって、取り組むべき課題は、「地域資源の維持・管理」「循環型活用の推進」「関係人口の創出」という3点に整理できる。

## 6. 次年度の活動計画案

次年度は、本年度の実態調査と実証活動の成果を踏まえ、「維持を支える実践的支援」と「小規模でも継続可能な仕組みづくり」を軸に活動を展開する。

### (1) 地域資源の維持・管理支援

草刈りや落ち葉集め、清掃活動など、地域の負担が大きい作業を学生が定期的に支援する。整備や大規模改修ではなく、「維持レベル」での補助を基本とすることで、住民の意向に沿った支援を行う。また、地域資源を活用したカブトムシ養殖事業への協力や、乾燥薪のオンライン販売を通じた団体活動資金の創出にも取り組む。これにより、単なるボランティアにとどまらず、自立的な運営基盤の構築を視野に入れたビジネス展開の準備を進めたい。

### (2) 柿渋の商品化に向けた実践的展開

本年度発酵を確認した柿渋については、現段階では直ちに商品化できる状況にはない。そのため次年度は、まず基礎データの蓄積と品質の安定化を最優先とする。

具体的には、発酵期間や保存方法の違いによる色味・粘度・臭気の変化を記録し、一定の品質を保てる条件を整理する。また、小規模な試験塗布や染色実験を行い、木材・布・紙など素材別の適性を検証する。さらに、安全性や耐久性の確認、使用上の注意点の整理など、製品化に必要な基礎情報を段階的に収集する。

これらの検証を通じて、柿渋の特性を明確にしたうえで、田村市内企業との連携可能性を探り、将来的な商品化に向けた具体的な協議へと発展させていく方針である。

### (3) 獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo”における長外路物産展の出店

獨協大学の環境週間“Earth Week Dokkyo”において、「長外路物産展」を検討し、長外路地区の認知度向上につなげる取り組みを行う。大学の学生や教職員を対象に、地域の魅力を伝えるPR活動を実施し、ナツハゼの試食会・販売や長外路地区の薪の薪割体験、地域の歴史・文化を紹介する展示を企画することで、長外路地区の認知度向上を図る。

### (4) 地区全体への実態調査の拡大

今年度は4名へのインタビューであったが、次年度は対象を拡大し、より多くの住民の意見を把握することで、地区の総意に近い形で支援の方向性を整理する。

## 7. おわりに

今年度も、私たち獨協大学地域活性化プロジェクトチームは、田村市船引町長外路区において地域活性化に向けた活動を展開してきた。現地視察や住民の皆様とのコミュニケーションを通じて、この地域が持つ豊かな自然や歴史、そして住民同士の強い結びつきを肌で感じることができた。一方で、少子高齢化や生活環境の変化に伴う課題も明らかとなり、地域

の持続的な発展のために、私たち大学生がどのように貢献できるのかを深く考える機会ともなった。

今年度の活動では、現地調査やインタビューを通じて長外路地区の魅力を再発見するとともに、塗料用の柿渋の商品開発、学内での「長外路物産展」の実施、カブトムシ養殖事業への協力、乾燥薪のオンライン販売による団体活動資金の創出などを行い、次年度の活動計画策定にも取り組んだ。これらを実現するためには、住民の方々ととのさらなる対話や、地域のニーズに適した具体的な計画の策定が必要である。そのため、次年度はこれらの課題を踏まえ、地域の方々と密に連携しながら、より実効性のある活動を展開していくことが求められる。私たちは、昨年度に引き続き「地域活性化は一方的な支援ではなく、協働によって成り立つ」という理念を意識し、地域の方々の温かいご支援にも感謝しつつ、長外路行政区の活性化に向けて貢献していきたい。

昨年度からはじまった本事業は3年目の次年度は地域の方々が県のサポート事業(地方創生総合支援事業(過疎・中山間地域活性化枠)に申請・採択されるように伴走支援を行い、4年目はサポート事業に採択されていることが大学生事業継続の要件となっている。4年目にサポート事業を採択されるためには、2年目の実証活動をいかに充実させて成果を出していかなければならなかった。

ところが、6節の次年度活動計画案は2年目の実証活動が終わった時点では、お粗末な段階にとどまっていると自覚している。もっと詳細に作成されていないと、サポート事業の採択は難しいと考えるべきだろう。いまの次年度活動計画案から、次年度の後半でサポート事業に申請・採択を目指すためには、よほど厳しい状態にあるとメンバー一同認識して取り組まなければならない。したがって、次年度の事業が開始を待たずに、詳細に議論を重ねて企画の概要、期待される効果と具体的な企画案など、3年目の事業開始にはすぐにでもスタートできる事業の企画案を作り上げなければいけないと思っている。そうしないと3年目で本事業が終わってしまうと、緊張感を持って次年度伴走支援採択を目指したい。

## 謝辞

今年度も3回の現地調査に加え、5回のオンラインミーティングの開催を実施してきた。田村市船引町長外路行政区長 佐藤澄夫様、里山再生プロジェクトの田村市市議会議員 佐藤重実様、薪の里ながとろ園主 佐藤満雄様、一般社団法人 nononowa 代表理事(元田村市地域おこし協力隊) 中山真波様、前長外路行政区長 佐久間嘉彦様、前々長外路行政区長 佐藤篤恵様、そして2017年度田村市総務部協働まちづくり課にいた当時からずっと私たちの活動の場を整えてくださっている鈴木俊栄様には、本当にお世話になりました。

また、福島県地域振興課ならびに社会システム株式会社の皆さまをはじめとし、本事業に関わったすべての方にこの場をお借りして御礼を申し上げます。